

平成 25 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490800026		
法人名	株式会社 ウインズの森		
事業所名	ウインズの森 角田グループホーム	ユニット名	ユニット1
所在地	宮城県角田市角田字緑町10-1		
自己評価作成日	平成25年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様が不安に感じていることは何かを探り、安心できる環境や言葉がけは何なのか、スタッフ全員で考え、寄り添えるケアを心がけている。 ・出来る能力を生かし、笑顔で生活できるよう工夫している。 ・季節感が感じられる献立や掲示(環境)を心がけている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年11月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>閑静な住宅街におしゃれな窓の造りの2ユニットのホームがある。ユニット間にはウッドデッキがあり、年中行事、花火大会を全員で見たり、日向ぼっこをしたりと入居者の交流と憩いの場になっている。町内会とは運営推進会議や地域行事等の参加、「災害時援助協定」を結んでおり、地域住民とホームの双方向的な援助体制が整っている。法人の方針で定期的な勉強会、毎月の避難訓練、役員の個人面談等が行われ、職員の意識向上、情報の共有に努め、入居者と家族の安心に繋げている。震災のため、県外からの入居者を受け入れており、行政には手続き等で相談、指導を受けている。ホームは良好な環境のもとで運営されている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 **ウインズの森 角田グループホーム**) 「ユニット名 **ユニット1** 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時スタッフ全員で掲げた理念がある。また、会社の理念を毎朝唱和している。ユニット毎に目標を掲げ意識しながら実践している。	「尊重・共生・笑顔～ずっと地域で～」の事業所理念を基本にユニット毎の目標「チームワークを持って」「喜怒哀楽を分かち合おう」を掲げ、入居者一人ひとりに寄り添ったケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(美化活動)へ参加し草取り・花植えなどの行事に積極的に取り組み交流を深めている。週1回のアニマルセラピー・定期的に婦人会のボランティアが入り交流している。	町内会に加入し、隣接公園の花壇に入居者が花を植える等交流している。日本舞踊、歌等の地域婦人会や週1回の犬、猫のアニマルセラピー、ボランティア来訪には家族も加わり継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して研修や認知症の人の理解した施設での行事を報告し、理解や支援方法を地域の人々に向けて生かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、区長、民生委員、利用者家族、入居者の方々と2ヶ月に1回運営推進会議で、意見交換しアドバイスなどいただき取り組んでいる。	行政職員、区長、民生委員、地域の老人会、入居者・家族を委員に偶数月に開催している。地域は一人暮らしが多く、地域福祉の拠点になるよう「災害時援助協定」を町内の老人会と結び、相互援助体制を整えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の更新、変更時などに相談や報告を行い指導を受けている。角田市の認知症情報誌作成部会のメンバーとなっている。	市企画の「認知症情報誌」作成メンバーで、年2回発行し市内全戸に配布している。認知症サポーター養成、フォローアップ講座に職員が参加した。今回の外部評価にも市職員が同行し、地域外避難者の入居相談に応じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はしていない。外に出た様子の際は一緒に散歩に出掛けている。月1回の勉強会で身体拘束の具体的な行為を知ってもらっている。現在、家族の了解を得て夜間のみ身体拘束を実施している利用者がおり、月1回評価をしている。	職員全員で勉強会を開き、身体拘束による弊害を理解し、拘束のないケア実践に努めている。骨折後、立ち上がり困難な方の安全を最優先に考え、夜間のみセンサーを使用しているが家族に説明、同意を得ており、月1回の職員全員で充分話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の勉強会のテーマに組み込み、全スタッフが意識を持ってケアにあたるよう勉強する場を作り防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加したり、内部研修で講義を行い知識を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書と入居契約書をご家族と読み合わせし、内容に沿って質問の受付説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、プラン説明時などに意見や要望がないか話あっている。電話での家族からの相談も随時受けている。	家族からの要望は訪問時に聞くことが多く、「苦情受付書」に記録している。内服薬が切れた事、行動のし過ぎの見守り依頼等があり、家族への丁寧な説明と職員間で意思統一を図り、希望に沿うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度全体会議に意見交換を行っている。また、随時申し送りや意見をノートや口頭で行い意見交換をしている。管理者による個人面談を行い要望や悩みなどを話せる機会を作っている。	好きな番組を見たいとの入居者要望を社長が出席する月全体会議で提案し、すぐにブルーレイディスク購入し喜ばれた。管理者と年1回以上、新人は3ヶ月毎個人面談があり、意見などを聞き反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得やスキルアップに理解があり、出来る限りの協力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務状況をみながら、希望通りにシフトを組み、研修を受けられる体制作りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などの参加を通して、他施設と交流や情報交換ができる機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者からの希望を第一と考え、家族に情報をもらい、安心して過ごせるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様と連絡を取り合い、より深い信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用するにあたり、ご本人・家族と面談し、必要としている支援を見極め、家族の合意の上プランを決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を送る上で、利用者様の出来る能力を引き出しながら一緒に行い、その方らしく共同生活を送られるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの本人様の希望、在宅時代の本人様の希望を家族と情報交換し、本人の希望に答えられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知人の理容師が2ヶ月に一回散髪や髭剃りに来所している。利用者の友人や行きつけの喫茶店の方が面会に来られるなど、面会に気やすいよう配慮している。	敬老会に入居者知人の仕出し屋から弁当を配達してもらい喜ばれた。お孫さんが勤めているケーキ屋に仙台から来て頂き、ケーキ作り実演を楽しんだり、来訪者への再訪を誘いかけて、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個性を把握して、気の合う方々と一緒に散歩に出掛けたり、利用者全員が参加できるようなレクリエーションを取り入れたり交流の場を設けている。また、スタッフが間に入りコミュニケーションが図れるよう支援し、関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃のコミュニケーションやケアの中から、本人様からの希望などを情報収集し、安全に支障がない範囲でニーズの実現を実践している。	入居者と一対一でゆっくり寄り添いながら過ごす、入浴や居室で思いや意向を聞き、家族の法事、図書館に行きたい等を実現した。把握が難しい方には日々の表情や仕草から気持ちを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調での本人、家族からの情報収集以外にも、日常のケアの中で本人・ご家族から得た情報を全スタッフに伝え情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り以外にも、ミーティングで一人一人の状態を話し合い、課題の解決につなげられるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	CM、スタッフ、本人様、家族からの意見を取り入れ、ニーズにこたえるだけでなく、希望を実現できるようなプランを作成している。	3ヶ月毎にモニタリング、6ヶ月毎に職員全員で話し合い、家族の意見も取り入れ計画を見直し、家族に説明し同意を得ている。担当制だが、職員は2ユニット全員の事を把握し、意思統一したケアに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り、ミーティングで情報の共有化、記録の重要性を常に話し合い、ケアに生かしたり課題の改善につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	楽しく毎日を送って頂ける空間づくりができるグループホームらしさを生かし、ドライブなどのサービスも取り入れ柔軟な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接している公園への散歩やスーパーへ買い物に出かけ、買い物が楽しめるよう支援している。地域の美化活動に毎月参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要な場合は、必ず家族・本人様と相談して対応している。訪問診療や受診時は情報の共有や密な連絡を行い入居者の状態の向上に努めている。	月一回の協力医の訪問診療は15名、他はかかりつけ医を受診している。受診結果は申し送りノートに記載し、家族に連絡し安心に繋げている。職員間の情報共有は申し送り時に伝達している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時や病院を受診した際には、必要に応じて看護師に現在の症状や様子など伝え、情報を共有し相談し、適切な支援が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関だけでなく、家族との連絡も密に行い退院後の受け入れ体制、環境づくり早期退院に向けて情報の交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には契約時点での説明、話し合いを行い、その後も随時相談や説明をしている。重度化や終末期に向けた指針を成文化し家族の同意と意思確認をしている。スタッフについても会社としての方針をミーティング時伝え話し合いをしている。	前回目標達成計画に掲げた「ホームが出来ること、出来ないこと」は本社を含め方針を検討し、「重度化対応、終末期ケア対応指針」を成文化している。その指針を家族に会って説明し、意思確認、同意を得ることを順次進めている。職員にも会議で周知している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年全スタッフで救急救命講習を受講しているが、新しく入ったスタッフは受けていない。定期的に訓練が必要であるため勉強会に組み込んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月火災時などを想定した避難訓練を行っている。夜間想定とした訓練を2名のスタッフで行い、全スタッフが避難訓練を実施できるようにしている。災害時援助協定を自治体と締結している。	夜間想定避難訓練を出火想定場所を変え、毎月入居者全員、職員2名、区長、民生委員参加で行っている。消防署の助言で居室入口に避難札、避難方法(車椅子等)を絵で表示している。非常用食料等も備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄などの声掛けをそっと行ったり、トイレの外で見守ったり配慮している。居室に入る際には必ず声掛けをしている。利用者様には、名前に「〇〇さん」付けで呼び、その方に合わせた声掛けをしている。	「トイレに行きませんか」と耳元でそっと声掛けするなど配慮している。入居者を名前に「さん」付で呼んでいる。マイペースで話す方には、否定せずうなずきながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の言葉に耳を傾け、分かりやすい言葉で話しかけ自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望がある時や不安が強い時は、寄り添って話を聞いたり、希望がかなえられる事については、行動を共にしたりしている。その方の好きだった物を取り入れ(散歩・買い物など)その方らしい生活ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧を習慣でしていた方には自分で化粧をしてもらい、また行事の時はみんなで化粧をするようにしている。2ヶ月に一度理美容が入り髪の手入れ顔そりをしている。好みの服装を取り入れている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事、出来ない事を把握してその方の能力を生かし、食事の盛り付けや下ごしらえ、食器拭きなどを一緒に行っている。メニュー作りでは、食べたいものや好きなものを聞き取りし取り入れている。	週間献立、一日分の食事の写真を本社へ送り、社長、栄養士が確認している。入居者の食事ペースに合わせ介助している。入居者は片付け等を手伝っている。月2回、スイーツキング、おはぎ作り等ユニット毎の行事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の状態に合わせて食事量を調整したり、食事形態も食べやすいように工夫したりしている。食事量・水分量とも、記録に残し状態の把握に努めている。水分不足にならないよう好むものを取り入れたりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、介助が必要な利用者には介助している。また、口腔内の状態も確認している。夕食後は、清潔保持のため緑茶でうがいをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄のパターンを把握して、トイレに声掛けし誘導している。夜間は安眠を妨げないように個別に対応している。ミーティングや申し送りノートで統一したケアができるようにしている。	「生活記録表」に1日分、「排泄チェック表」に1ヶ月分を記録し、一人ひとりに合わせたトイレでの排泄を支援している。便秘の方には医師からの薬で調整する事もある。夜間はパッドやオムツの使い分けで個別対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の状況を把握し、状況に応じて下剤を使用して排便をコントロールしている。自然排便を促せるような食事を提供したり、運動を取り入れたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴が実施できるようにしている。時間帯や曜日については希望を伺いながらしている。季節の習慣(菖蒲湯やゆず湯)を取り入れ、気持ちよく入浴ができるよう努めている。	予定を組んでいるが、拒否の方には無理せず次の日にする等の工夫をしている。トイレから暖房のある脱衣所に直接行ける、浴槽が大きい等使いやすい設えになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの状況に合わせて、安全な環境のもと休んでいただいている。午睡中は安眠を妨げないよう不要な声掛けを控えて見守りしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容や副作用については、薬の説明書で確認している。服薬の漏れ間違いないようにチェック表で確認をしている。状況に変化がある場合は申し送りし、状況に応じては医師に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活習慣を考慮しながら、出来る能力に合わせて、家事を一緒にしたり、体操などのレクリエーションなどを取り入れ楽しみや気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	菜の花畑見学に出掛けたり、夏には花火観賞を全員で行った。また、スイカ割りも行い季節感が味わえるよう工夫している。日常的には、近くの公園まで散歩したり、歩いて買い物に出掛けたり、ウッドデッキでおしゃべりしながら日光浴などしている。	日常は食材の買物と一緒に行きおやつを買ったり、すぐ隣の公園への散歩もしている。堤防の菜の花見学等は車椅子の方も一緒に出かける。お孫さんの結婚式に昨年、今年と2回出席した方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はスタッフがしているが、個別の買い物をする時は、一緒にできる方は見てもらいながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望がある時は、家族に事前に了承を得て電話ができるようにしている。手紙のやり取りは自由にできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ウッドデッキにはみんなで選んで植えた花壇があり、いつでも成長が見れるようしている。ホール内の壁には季節ごとに利用者と一緒に作成した壁飾りを掲示している。季節感が味わえるように支援している。	家庭のような玄関、おしゃれな窓の作りで陽ざしがやさしく入っている。テレビは壁掛け、装飾品も少なめでリビングはすっきり広々としている。ユニットの間にあるウッドデッキは行事や日向ぼっこに使われ、交流と癒しの空間になっている。温湿度も良く、空気も淀みがない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキやソファのスペースを利用し、気の合う方同士がくつろいだり、話ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や写真などを家族やご本と相談しながら設置し、安心できる空間づくりに努めている。	居室備え付けのベッドと大きいクローゼットがある。馴染みの写真や筆筒、テレビなどが持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配置している。心が落ち着くようにと職員が家族と相談して購入した神棚もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関や廊下に手すりを設置し立ち上がりや歩行の自立支援を行っている。居室入口に表札と顔写真を用意し自ら確認する事で安心感が得られるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490800026		
法人名	株式会社 ウインズ		
事業所名	ウインズの森 角田グループホーム ユニット2		
所在地	宮城県角田市角田字緑町10-1		
自己評価作成日	平成25年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

スタッフは理念を意識しながら利用者に関わっている。
役割がある利用者、そうでない方でも出来る事はないか、探りながら役割が持てるように努めている。
利用者に合わせてケアを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年11月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

閑静な住宅街におしゃれな窓の造りの2ユニットのホームがある。ユニット間にはウッドデッキがあり、年中行事、花火大会を全員で見たり、日向ぼっこをしたりと入居者の交流と憩いの場になっている。町内会とは運営推進会議や地域行事等の参加、「災害時援助協定」を結んでおり、地域住民とホームの双方向的な援助体制が整っている。法人の方針で定期的な勉強会、毎月の避難訓練、役員の個人面談等が行われ、職員の意識向上、情報の共有に努め、入居者と家族の安心に繋げている。震災のため、県外からの入居者を受け入れており、行政には手続き等で相談、指導を受けている。ホームは良好な環境のもとで運営されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 ウインズの森 角田グループホーム) 「ユニット名 ユニット2 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時スタッフ全員で掲げた理念がある。ユニットごとにも理念を掲げ、スタッフは意識しながらケアにあたっている。	「尊重・共生・笑顔～ずっと地域で～」の事業所理念を基本にユニット毎の目標「チームワークを持って」「喜怒哀楽を分かち合おう」を掲げ、入居者一人ひとりに寄り添ったケアの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の公園の美化活動に月1回参加している。早朝6時からではあるが、スタッフと出席可能な利用者が欠かさず参加している。地域の方から自然に声を掛けられるようになっている。	町内会に加入し、隣接公園の花壇に入居者が花を植える等交流している。日本舞踊、歌等の地域婦人会や週1回の犬、猫のアニマルセラピー、ボランティア来訪には家族も加わり継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で研修の報告など行い、お互いに情報を交換しながら支援方法を探っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を行う場合は、利用者が常に過ごしているホールで行っており、一緒に参加している。時には意見なども述べたりしている。有事の時はお互い協力するようにと、協定を結ぶため、特に意見は活発になっている。	行政職員、区長、民生委員、地域の老人会、入居者・家族を委員に偶数月に開催している。地域は一人暮らしが多く、地域福祉の拠点になるよう「災害時援助協定」を町内の老人会と結び、相互援助体制を整えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、地域包括センターの方や介護保険係の方が出席しており、市の取り組みや現状を報告してもらっている。また、アドバイスや相談にもものってもらっている。	市企画の「認知症情報誌」作成メンバーで、年2回発行し市内全戸に配布している。認知症サポーター養成、フォローアップ講座に職員が参加した。今回の外部評価にも市職員が同行し、地域外避難者の入居相談に応じている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が必要な方はいない。日中は施錠する事をせず見守りをしている。外へ出ようとする方には引き止めず、様子をみてスタッフも一緒に寄り添っている。	職員全員で勉強会を開き、身体拘束による弊害を理解し、拘束のないケア実践に努めている。骨折後、立ち上がり困難な方の安全を最優先に考え、夜間のみセンサーを使用しているが家族に説明、同意を得ており、月1回の職員全員で充分話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各スタッフが意識しながらケアにあたっている。疑問に思った点は調べたり、お互いに声を掛け合うなど利用者を尊重している。勉強会を開き知識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加。全体会議でも毎月テーマを決め、勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結、解約ともスタッフ2名でご家族と一緒に読み合わせをしている。節々で疑問点の有無の確認をしながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より家族との信頼関係を築けるように努めている。素直な意見を言えるような関わり方をしている。	家族からの要望は訪問時に聞くことが多く、「苦情受付書」に記録している。内服薬が切れた事、行動のし過ぎの見守り依頼等があり、家族への丁寧な説明と職員間で意思統一を図り、希望に沿うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のミーティングには、社長・常務が必ず出席し、会社の状況等の話が聞ける。また、同じ場でスタッフからの小さな意見も言える機会がある。	好きな番組を見たいとの入居者要望を社長が出席する月全体会議で提案し、すぐにブルーレイディスク購入し喜ばれた。管理者と年1回以上、新人は3ヶ月毎個人面談があり、意見などを聞き反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得やスキルアップに理解があり、出来る限りの協力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務状況をみながら、希望通りにシフトを組み、研修を受けられる体制作りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などの参加を通して、他施設と交流や情報交換ができる機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者が出来る事、出来ない事を見極め、話をしながら意見を聞き、特に安心できる環境を整えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、スタッフも分らない事が多いため家族に相談している。不安な点、どんな生活を希望するかを確認しできるだけ希望に添えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	以前の生活を知ることから始まり、利用者が何を求めているか探っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、料理の中で利用者にあつた事を一緒に行っている。意欲がない方には、出来る事を探る努力を、スタッフ同志声を出し合い行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当スタッフより普段の様子を伝える手紙を送っている。また、行事などにも家族へ声をかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人等の面会時には席を考慮したり、スタッフが仲介し会話がしやすいような場を作っている。	敬老会に入居者知人の仕出し屋から弁当を配達してもらい喜ばれた。お孫さんが勤めているケーキ屋に仙台から来て頂き、ケーキ作り実演を楽しんだり、来訪者への再訪を誘いかけて、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ人ばかりが寄ることがないように、状況をみながら席を配慮することもある。スタッフが仲介する事で穏やかに過ごせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援ができるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時にはスタッフと1対1で話をする。短時間ではあるが本音話してくれる場合が多い。また、申し送りノートには、小さな気づきや疑問を書き全員が共有できるようにしている。	入居者と一対一でゆっくり寄り添いながら過ごす、入浴や居室で思いや意向を聞き、家族の法事、図書館に行きたい等を実現した。把握が難しい方には日々の表情や仕草から気持ちを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	話をする中から、利用者を理解したいと想いながらスタッフは関わっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方のリズムを把握できており、スタッフは合わせながらケアにあたっている。無理強いせず、利用者が穏やかでいられる様に接している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見やアイデアを踏まえ、利用者の状態を見ながら意欲向上ができるように努めている。申し送りをしっかりと行いケアの統一も図っている。	3ヶ月毎にモニタリング、6ヶ月毎に職員全員で話し合い、家族の意見も取り入れ計画を見直し、家族に説明し同意を得ている。担当制だが、職員は2ユニット全員の事を把握し、意思統一したケアに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化がある時は、詳しく経過を記入。申し送りノートには、共有するためにも思った事や気付いた点を何事も記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態に合わせたケアができるように、見直しをしたり柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	美化活動、市の行事には参加できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医師が月1度訪問診療を行っている。異変時には相談の上受診の指示もあり、適した医療機関への紹介もしていただいている。	月一回の協力医の訪問診療は15名、他はかかりつけ医を受診している。受診結果は申し送りノートに記載し、家族に連絡し安心に繋げている。職員間の情報共有は申し送り時に伝達している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時や病院を受診した際には、必要に応じて看護師に現在の症状や様子など伝え、情報を共有し相談し、適切な支援が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、利用者の情報を連絡取り合い、病院とご家族とともに連携が図れるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に急変や重度化した場合の家族の意向を確認している。重度化対応・終末期ケア対応指針については会社全体で考え、方針をまとめ家族に説明し同意をいただいているところである。	前回目標達成計画に掲げた「ホームが出来ること、出来ないこと」は本社を含め方針を検討し、「重度化対応、終末期ケア対応指針」を成文化している。その指針を家族に会って説明し、意思確認、同意を得ることを順次進めている。職員にも会議で周知している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故等に対応できるように繰り返し訓練している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月一度、災害を想定した避難訓練を行っている。夜間想定を主にし、スタッフ2人での避難誘導を繰り返し行っている	夜間想定避難訓練を出火想定場所を変え、毎月入居者全員、職員2名、区長、民生委員参加で行っている。消防署の助言で居室入口に避難札、避難方法(車椅子等)を絵で表示している。非常用食料等も備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者には名前に「〇〇さん」づけで呼びそ の方に合わせた声掛けをしている。	「トイレに行きませんか」と耳元でそっと声掛け するなど配慮している。入居者を名前に「さ ん」付で呼んでいる。マイペースで話す方には、 否定せずうなずきながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	分かりやすい言葉で話しかけ、自己決定で けるように工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムがあり、スタッフは沿うよ うにケアを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	訪問理容を2ヶ月に一度行っている。その 際、希望をお聞きしてからカットをしている。 個人に合わせたカットをして頂きスタッフも 感心している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けをスタッフと一緒に 行っている。月一度のお楽しみ会では焼き 肉、パンビュッフェ、手巻き寿司等行っ ている。	週間献立、一日分の食事の写真を本社へ送 り、社長、栄養士が確認している。入居者の 食事ペースに合わせ介助している。入居者は 片付け等を手伝っている。月2回、スイーツ キング、おはぎ作り等ユニット毎の行事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	献立はスタッフが考えているが、利用者の 体調に合わせて食べやすくしている。水分 量は特に摂取していただけるよう工夫して いる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	施設訪問口腔ケアで個々のケアの仕方を 教わった。義歯も每晚洗浄、消毒している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パット使用の方も、排泄のリズムを把握し、トイレへの誘導を続けている。失禁の回数も減り自立への支援に努めている。	「生活記録表」に1日分、「排泄チェック表」に1ヶ月分を記録し、一人ひとりに合わせたトイレでの排泄を支援している。便秘の方には医師からの薬で調整する事もある。夜間はパッドやオムツの使い分けで個別対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表にて排便を把握し、その方に合った間隔を探った上で、薬で調整し排便をコントロールしている。食事面でも意識して、食物繊維や寒天を一日一度出すように工夫を続けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入る事が出来るよう予定を組んでいるが、希望があれば対応をしている。また、無理強いすることはしていない。	予定を組んでいるが、拒否の方には無理せず次の日にする等の工夫をしている。トイレから暖房のある脱衣所に直接行ける、浴槽が大きい等使いやすい設えになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、灯りは最小限にとどめ、安眠な状況を提供している。体調や表情を観察し午睡の声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一覧表を作成しセットとチェックを別のスタッフがやっている。内容については処方箋で確認。薬剤師からの説明は全スタッフに申し送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできること、スタッフと一緒にならでできる事を探り、情報を共有した上で声掛け等内容を統一し支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って外出する事は、現在難しい。買い物やドライブ等へには可能な限り、利用者も一緒に行っている。散歩など外気浴にできる限り対応するように努めている。	日常は食材の買物と一緒にいきおやつを買ったり、すぐ隣の公園への散歩もしている。堤防の菜の花見学等は車椅子の方も一緒に出かける。お孫さんの結婚式に昨年、今年と2回出席した方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は施設で一括で預かっている。外出時等に嗜好品を購入する時がある。一部利用者は心配の素である為、声掛けを統一している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不定期ではあるが、一部利用者が家族へ向けて手紙を書いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に過ごしているホールには、利用者と一緒に作った飾り付けをし、季節感を出すようにしている。	家庭のような玄関、おしゃれな窓の作りで陽ざしがやさしく入っている。テレビは壁掛け、装飾品も少なめでリビングはすっきり広々としている。ユニットの間にあるウッドデッキは行事や日向ぼっこに使われ、交流と癒しの空間になっている。温湿度も良く、空気も淀みがない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキには、ベンチがありホール隅にはソファがあり、思い思いの場で過ごしている。利用者の表情を見てスタッフが仲介し、独りでの時間を過ごしてもらい配慮をする事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各担当者が衣類の整理などを行っている。昔から馴染みの物も持ち込んでいただき、居心地がよくなるように努めている。	居室備え付けのベッドと大きいクローゼットがある。馴染みの写真や筆筒、テレビなどが持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配置している。心が落ち着くようにと職員が家族と相談して購入した神棚もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関や廊下、トイレ内にも手摺りを設置。立ち上がりや歩行の自立につながっている。居室前には、名前と写真を掲げ分りやすいように工夫している。		